

令和7年度 第3回学校運営協議会 議事録

日時 令和8年2月20日(金) 15:00~16:30
場所 大阪府立清水谷高等学校 校長室
出席者

協議会委員	柴 浩司 様	欠席
	須藤 隆二 様	出席
	西田 清盛 様	出席
	野原 久実 様	出席
	大野 広 様	出席
	元山 千賀 様	出席
校長	竹内 伸一	出席
事務局	林 拓磨	出席
	太居 豊	出席
	納江 良子	欠席
	高田 雄	出席
	網 真明	出席

1. 副委員長より挨拶

委員長欠席のため、須藤副委員長が議事進行を行った。

2. 校長より挨拶

3. 資料の確認

4. 令和7年度 学校教育自己診断 集計結果

令和7年度の調査結果を報告した。生徒の回答では最大98.4%の肯定的な回答があった。一番低いものでも84.2%と全体を通して高評価だったといえる。保護者の回答も同様で、最大98.1%の肯定的な回答となった。最低値だったのは71.3%のPTA活動の活発さに関する質問である。本校では2024年度よりPTAの規模縮小を行っており、委員会をすべて廃止し、PTAの協力が必要な時にはボランティア形式で募集しているため、活発な活動だと判断されにくいのではないかと推測している。委員からは、価値観として活発な活動を前提とすることに疑問があるため、設問の妥当性を検討してはどうかという意見をいただいた。

5. 令和7年度 学校経営計画及び学校評価（案）

前回の学校運営協議会以降の学校の様子等を報告した。AIを使ったアプリ開発の全国大会である「アプリ甲子園」での準優勝や、ビブリオバトルでの活躍、探究活動における13校合同発表会での発表など、生徒が多様な分野で成果を上げている。また、部活動では女子バレー部、囲碁将棋部、合唱部をはじめ多くの部活動が結果を残している。行事では、東大阪文化創造館で実施した壺月祭や耐寒行事も無事実施できた。

中学生の募集状況については、高校私学無償化の影響により、私学の専願率が高まっている。本校としては一定の倍率（1.2倍程度）の維持を目指すべきであり、現状は維持ができていますが、今後も動向を見守りたい。

令和7年度の学校経営計画及び学校評価の目標値に対しての達成状況を報告した。高く評価された、または達成した点としては、授業アンケートでの指標3.5以上の達成、海外交流（語学研修や姉妹校提携）の再開、個別面談を通じた丁寧な教育相談体制（肯定率98%）、保護者アンケートの評価の大幅上昇（授業の分かりやすさ、指導方針への共感、相談対応など）などが挙げられる。委員からの意見として、「学びの活用」など4項目が目標値に届かなかったことについて、いずれも数ポイントの僅差であり、実質的には高い水準を保っているのだから全く問題ないとの意見があった。また、2年前に職員室を「学年ごとの配置」に変更したことについて、教職員の反応について質問があった。学年単位での迅速なトラブル対応が可能になり教職員から好評を得ている一方で、教科指導の打ち合わせスペース不足という声もある。学校としては現状の生徒の様子を見ている限り、学年での差がない対応が不可欠だと考えているため、変更は考えていない。

6. 令和8年度 学校経営計画及び学校評価（案）

令和8年度の学校経営計画及び学校評価の作成に関して、概ね令和7年度を踏襲しているものの、令和8年度から新たに記述したところを中心に説明を行った。普通科の特色を出すために、「普通科の学校としての特色を生かして」という文言を追加し、多様な生徒を伸ばす本校の強みを明確化した。また、リベラルアーツを重視するために、音楽・美術・書道の芸術科目を通じた「リベラルアーツの学び」を追記し、非認知能力の育成を推進する。さらに、サポート体制の強化として不登校傾向や家庭に課題を持つ生徒をフォローするため、「教育相談体制の充実」を明記した。委員の方から意見とし、非認知能力を育成する機会として、リベラルアーツを通じた豊かな心を育成する取組みを大切に、特に芸術3科は絶対に守ってほしいとのことだった。

7. その他

全委員から、清水谷に関するご意見ご感想をいただいた。全委員から清水谷を高く評価する意見が出され、現在の教育活動を継続していくべきとの提言があった。